

## はじめに

### －紀要の役割に対する個人的考え－

新潟大学留学生センターの紀要の第3号の発行を迎えることが出来ました。これも皆様のお力添えによるものです。現在、本学には350名を超える留学生が、学んでいます。それぞれの留学生の学びたい分野は多様で、また目的も異なるかもしれません。多種多様な留学生に対して日本語教育をしたり、留学生の学習、生活などの相談にものったりしているところが留学生センターですが、今回の紀要の内容は留学生センターの実際の教育現場で経験を通して得られたもの、留学生からのアンケート等の他、他学部からの寄稿も含まれ充実して参りました。

最近、大学の評価の問題があちこちで議論されています。紀要はもともと「大学や研究所などから出す研究論文を収載した定期行物」として知られるもので、大学の研究の成果を公表する重要なものです。私の専門は、自然系に属しそのため必ずしも全分野に適用は出来ないかと思ひます、研究評価の最近の動向について述べさせていただきます。

最近、米国ISI社(The Institute for Scientific Information)の引用統計データベースを用いた評価方法の議論が盛んに行なわれています。このデータベースに、

- ・SCI (Science Citation Index) : 自然科学系 3500 種以上
- ・SSCI(Social Science Citation Index) : 社会科学系 1700 種以上
- ・A&HCI (Art & Humanities Citation Index) : 人文科学系 1140 種以上の学術雑誌が登録されています。このデータベースには、よく知られた雑誌が登録されており、登録数は増え続けているようです。ご自分の関係の学術誌が登録されているかどうかを調べるには、ホームページで、ISSNの番号を入力すると確かめられます。

その良し悪しについては議論が残るところですが、一般には、このデータベースに登録されていることが、その学術誌が世界的に認知されていると思っている研究者が多いようです。

SCI等の引用検索データベースは、各論文の表題、著者、掲載雑誌名、巻号などの他、各論文の末尾に掲げられている参考(引用)論文リストも入っており、ある論文を引用している論文を検索できるようになっています。引用を雑誌別に集計した雑誌ごとの論文当たりの平均引用回数をImpact Factorと称して、その一覧をJCR(Journal Citation Reports)として毎年出版しています。教員の採用・昇任人事などにImpact Factorなどを考慮しているところなどもあり、また分野によっては、評価のおおきなファクターになっているようです。また最近、大学や研究機関ごとに、このデータベースの論文数や引用度の集計を行なった結果が新聞で取り上げられ論議を巻き起こしています。

Impact Factorは分野によってその平均値が大きく異なり、他人の論文を沢山引用することが慣例になっている分野もあれば、そうでない分野もあり、一般論的に比較することは

問題があります。また分野によっては研究者数が少なく登録された雑誌がない分野もあるでしょう。そのため、このようなデータベースに基づく研究評価は良くないと主張する人もいます。一方で、世界に通用する研究の評価として、理系、文系を問わず、このデータベースに登録されている論文で、研究を評価する傾向もあることも事実です。ある国の大部分の大学がこの評価方法を採用し始めていることも報告されています。

ところで、大部分の日本の大学の紀要は、このデータベースには登録されていません。そこで、一部の研究者からは、大学の紀要を廃刊したらとの意見も出ました。その理由は、紀要を出版するにもお金がかかります。そして、昔と違って各研究者はそれぞれの学会などに属して投稿すべき雑誌が存在すること、などです。この廃刊の意見には、私は個人的に、反対との考えです。その理由は、紀要には現状では評価されないかもしれない意欲的な論文や資料を載せる必要があるからです。意欲的な論文や資料ほど、既存の学会では評価されない可能性があります。すなわち、既存の学術誌とは役割分担があるからです。そして、大学の役割は、現状では評価されない未来を見すえた論文も積極的に残す必要が非常に大切だと思います。従来、エポックメイキングな研究は、名もない雑誌に、しかも数枚という短いものであったりします。

このように、学術誌と紀要とは、役割が重なる部分もあるとは思いますがそれぞれの役割分担をしながら、発展していくことと思います。

1997年4月に省令施設として設立以来留学生センターも満4年を経過しようとしています。留学生センターが省令施設として設立されて以来4年間センター長を勤めさせていただきました。4月から新しいセンター長にバトンタッチさせていただくことになりました。

大学における教育は、研究に裏打ちされたものでなくてはならないことは、多くの方々の認めるところです。留学生センターの紀要が今後さらに充実し発展されることを心からお祈りいたしますと共に、いろいろな面でご支援ご協力いただいた方々に心から御礼を申し上げる次第です。

新潟大学留学生センター長  
仙石正和